

# 富士市中小企業景況調査結果

令和4年度 第4四半期【令和5年1月～3月】

令和5年4月  
富士商工会議所調べ

## ◇ 調査実施要領 ◇

富士市内中小企業の景気動向と経営状況について調査を実施した。  
製造・建設・卸売・小売・サービス業の5産業、199事業所(回収率68.8%)を対象に、「令和5年1月～3月」の3ヶ月間の生産・売上および経営状況の調査を行い、その結果を産業別にまとめた。

### DI(景気動向指数)とは

『上昇・増加・好転』したとする企業割合から、  
『下降・減少・悪化』したとする企業割合を差し引いた値。

前期…令和4年10月～12月 今期…令和5年1月～3月 来期…令和5年4月～6月

表中の矢印=5ポイント以上の推移を上下矢印で表し、5ポイント未満は横ばい矢印で表示した

## ◇ 今期調査の概況 ◇

前期・今期と比べたDI値の動き			↗改善	→横ばい	↘悪化
主要DI	前期調査		今期調査 (前年同期)		来期予測
業況	▲21.0	→	▲19.4 (▲27.8)	→	▲19.4
売上	6.7	→	7.1 (▲12.7)	↘	▲1.6
採算	▲35.1	↘	▲40.3 (▲33.6)	↗	▲32.6

今期調査では、全産業合計の業況DIが+1.6ポイントの改善、売上DI+0.4ポイントの改善、採算DIが-5.2ポイントの悪化となった。来期の予測について業況DIは横ばい、売上DIは悪化、採算DIは改善の見込みとなった。業種別の来期業況DIは、サービス業で上昇を、建設業・卸売業で横ばいを、製造業・小売業で下降を予想。売上高DIは製造業・サービス業で上昇を、建設業・卸売業・小売業で下降を予想。採算DIは、サービス業で上昇を、製造業・卸売業は横ばいを、建設業・小売業は下降を予想。

全体を通して、資材等の価格高騰への危機感と、販売価格への転嫁が難しいとの声が多かった。また、DXなどの社会の変化に伴い、業務の転換を余儀なくされていることへの不安の声も多かった。一方で、コロナウイルスの2類から5類への変更に伴う人流やインバウンドの復活と共に、景気回復を期待する声も多く聞かれた。

経営上の問題点では、製造業、建設業、卸売業、サービス業で「商品、原材料仕入れ価格の上昇」が1位となった。小売業では「その他の需要の低迷」が1位となり、仕入れ価格高騰以外に様々な課題が浮き彫りとなっているようだ。

## ◇ 全産業の動き ◇

### 〔業況のDI〕 建設業、卸売業は上昇。製造業、小売業、サービス業は横ばい。

来期は全5業種で横ばいを予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲22.9	→	▲26.5 (▲17.3)	→	▲23.5
建設業	▲25.9	↗	▲19.2 (▲35.7)	→	▲23.1
卸売業	▲15.4	↗	▲8.7 (▲4.1)	→	▲13.0
小売業	▲16.6	→	▲20.0 (▲26.1)	→	▲21.0
サービス業	▲22.2	→	▲19.2 (▲51.8)	→	▲14.8
全産業	▲21.0	→	▲19.4 (▲27.8)	→	▲19.4

### 〔売上高のDI〕 小売業、サービス業は上昇。卸売業は横ばい。製造業、建設業は下降。

来期は製造業、建設業で上昇を予想。卸売業、小売業、サービス業は下降を予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	5.7	↘	▲14.7 (0.0)	↗	3.0
建設業	14.3	↘	▲19.2 (▲17.9)	↗	▲8.0
卸売業	19.3	→	23.9 (4.1)	↘	4.5
小売業	▲11.1	↗	30.0 (4.4)	↘	0.0
サービス業	0.0	↗	29.7 (▲48.3)	↘	▲7.2
全産業	6.7	→	7.1 (▲12.7)	↘	▲1.6

### 〔採算のDI〕 建設業、卸売業、小売業、サービス業は横ばい。製造業は下降。

来期は製造業、建設業、小売業で上昇を予想。卸売業、サービス業は横ばいを予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲37.1	↘	▲61.7 (▲36.6)	↗	▲50.0
建設業	▲46.5	→	▲42.3 (▲32.1)	↗	▲30.8
卸売業	▲23.1	→	▲21.7 (▲12.5)	→	▲21.8
小売業	▲38.8	→	▲40.0 (▲21.7)	↗	▲21.0
サービス業	▲29.6	→	▲27.0 (▲58.7)	→	▲29.6
全産業	▲35.1	↘	▲40.3 (▲33.6)	↗	▲32.6

## ◇ 産業別の動き ◇

※コメントは回答に基づき要約しています。

### 【製 造 業】 景気ムード…【厳しい状況】

『製紙・紙加工』…総じて燃料費等の高騰に対する不安とインバウンド需要への期待が多かった。「原料（パルプ・古紙）、薬品、電気、LNG等、製紙で必要な全ての物の価格が何度も上昇し、製紙業は苦しい」「紙の需要はコロナ前に戻るが、原材料や燃料の高騰で非常に厳しい」「燃料費が高騰し利益を圧迫している。現在は落ち着きをみせるが、ロシアのウクライナ侵攻が長期化することで、今後も燃料費高騰への不安は拭い去ることはできない」「家庭紙を取り巻く環境が悪化している。売価の値上げ分以上に資材や電気料金等の値上げが進んでいる」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「コロナも落ち着き、ようやく人流が活発になってきた。インバウンドの回復傾向で、業務用の家庭紙などは品薄になってきている。インバウンド需要を背景に、業務用家庭紙の出荷は増えていくだろう」とのコメントが寄せられた。

『金属加工』…総じて原材料価格の高騰を不安視する声が多かった。「自動車部品の動向は非常に厳しい。在庫の調整等で受注のバラツキが大きい。工作機械部品等については大きな落ち込みはなく順調である」「原材料高騰に対して価格転嫁ができず、利益率の悪化が続いている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「上昇していくと思われる」「需要の回復が見えてこない。大企業の国内回帰の動きがあるが、中小零細企業の現場では具体的な仕事の増加がみえてこない」とのコメントが寄せられた。

『金型部品』…総じて業界の停滞を不安視する声が多かった。「金型業界全般に言えるが、仕事が減少している。明るい兆しは全く見られない状態が続いている」「取引先が電気自動車への移行したことで、当初のプロジェクトが中止になり生産は落ち込んでいる」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「一番苦しい事は、原材料の高騰分を売上でカバーできない事である。秋頃まで耐えるしかないだろう」「4月5月は新規の受注が見込まれないが、6月以降少しは改善する見込みである」とのコメントが寄せられた。

『衣料・繊維加工』…「円安により生産を国内に戻す動きがあるが、販売価格はまだ海外製品と差がある」「原材料価格の高騰と賃金等の値上げにより、更に厳しくなっていく」とのコメントが寄せられた。

『印刷資材・印刷関連』…「印刷用紙の値上げが昨年2回あり、今年も早々に予定している為、更なる紙離れが進みそう」「用紙値上げによる紙離れが起きる可能性が高い。一度離れたものは戻ってくる可能性が低いので、厳しい状況が続くだろう」とのコメントが寄せられた。

『飲料・食料品』…総じて原材料等の高騰と今後の消費低迷を不安視する声が多かった。「富士市でほうじ茶の取り組みを始めて以降、ほうじ茶の認知度は大分上がってきている。冬の寒さでお茶の需要が増えた事と相まって、更にほうじ茶の認知度は高まっている」「食材の値上げにより、加工食品の需要は低迷しつつある。現在の価格高騰の要因は為替円安と国際相場の影響であり、今後は人件費高騰、エネルギー高も加わり商品価格は更に上がっていくと考えられる」「本音は経費高騰分の全てを上乗せして値上げ交渉を行いたい、販売価格が上がると消費は落ち込むため厳しい」「原材料の価格、製造コスト、人件費などの高騰で販売価格を値上げせざるを得ない状況である」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「富士のほうじ茶をさらに広める活動として、各企業とコラボが出来たらと考えている。ほうじ茶のトイレットペーパーやティッシュボックス等が出来たら、更にほうじ茶の需要は高まると思う。ほうじ茶で富士市を盛り上げたい」「加工食品の需要は低迷し、今後の景気は悪化すると思われる」「販売価格の値上げにより、売上が減少傾向になると思われる」とのコメントが寄せられた。

『**建具**』…「注文建具、家具の需要が少ない」とのコメントが寄せられた。

『**その他**』…「中止になっていた地域の行事が復活している」「富士山と新幹線の景色が、海外の映画に少し出るようだ」とのコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業 況	8.8	55.9	35.3	▲26.5	横ばい
売上高	23.5	38.2	38.2	14.7	上 昇
採 算	5.9	26.5	67.6	▲61.7	上 昇

## 〔建設業〕 景気ムード…【低調】

『**総合建設**』…総じて資材高騰に対する不安と民間の設備投資増加を期待する声が多かった。「物価上昇の影響が大きく、工事の受注が低迷している。それに伴い利益の確保も難しい。各建設会社は計画的な受注が出来ない状況である」「公共工事の受注件数はやや改善傾向。民間工事は厳しい価格競争が続いており利益幅の縮小が深刻である」「公共工事が減少傾向であったが、コロナが落ち着き、民間の建設投資の増加が見込める」「資材高騰の影響は高止まりの感あり」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「物価上昇は今後も続くだろう。また、働き方改革により労働時間の短縮や休暇取得促進により、建設業の現場は厳しい状況になると考えられる。今後起こり得る事態を想定しながら事業計画を立てる事が重要と考える」「民間工事は、今後も一定数工事案件が出てくると思われるが、価格競争の激化で、地方の中小建設業の受注難の状況は続くだろう」「コロナ禍で止まっていた投資が再開すれば、建物補修などの民間の需要が回復する」「持ち直しが期待される」とのコメントが寄せられた。

『**一般住宅**』…総じて住宅市場の縮小を不安視する声が多かった。「“今、家を建てて本当に大丈夫か”という消極的な質問が増えている。積極的に家を建てたいという声は少なく、住宅の動きが鈍くなっているように感じる」「建築資材の値上げが続き、売価に転嫁しきれていない為、利益減となってしまう」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「材料費がどこまで上がるか、今後の動向がわからない」「少子高齢化が今よりも更に進めば、建築業界は先細りになる」「厳しい状況が続くだろう」とのコメントが寄せられた。

『**建設関連**』…総じて受注減少に悩む声が多かった。「資材高騰により新築工事が増えない」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「今後も継続的な需要減が見込まれる」「工事案件の減少が予想される」とのコメントが寄せられた。

『**土木関連**』…「価格競争で受注価格が低下している」とのコメントが寄せられた。

『**造園土木**』…「大きな動きは感じられない」とのコメントが寄せられた。

『**設備工事**』…「コロナの影響はまだしばらく続くと考えられる。同業者間の過当競争も続くであろう」とのコメントが寄せられた。

『**その他**』…「建設業で働く人の高齢化、若い人材の都市部流出が進み建設業の人手不足が加速している」「インボイス対応が急務である」「大企業の賃金アップは中小零細企業には堪える」「公共事業等、市役所が絡む工事案件はクリーンなものを願いたい。必要な情報等は分かりやすい形で公開してほしい」とのコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	7.7	65.4	26.9	▲19.2	横ばい
売上高	15.4	50.0	34.6	▲19.2	上昇
採算	7.7	42.3	50.0	▲42.3	上昇

## 【卸売業】 景気ムード…【厳しい状況】

『**機械器具**』…総じて仕入値の高騰を不安視する声が多かった。「年度末と商品値上前の駆け込み受注で、一時的に売上はアップしたが、4月以降は不透明である。値上げ前の駆け込み需要が全国的に増えて、納期が長期化するメーカー品も発生している。電気部品は相変わらず長納期であるが、徐々に収まりつつあるようだ」「仕入価格の値上がりを、販売価格に転嫁できない商品もあるため、自社の利益が削られてしまう」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「急激な仕入れ値の高騰に対し販売価格の交渉ができず、暫くは利益率の低下が続くだろう」「全体的に改善していくと考えられる」とのコメントが寄せられた。

『**自動車部品**』…「国内の車検台数が昨年よりも減少。半導体不足により新車の生産台数が減少。ガソリン、電気など、全ての物価が上昇しており、企業の経費負担が大きく利益圧迫につながっている」とのコメントが寄せられた。

『**建築材料**』…総じて資材高騰に関する声が多かった。「土木関連は堅調のようだが、県東部は大きな案件が少なく厳しい状況」「ロシアのウクライナ侵攻により木材発注が集中した結果、9月頃には全国の港に木材製品があふれた為、円安でも木材価格が低下した」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「数少ない大きな工事でも地元のゼネコンが受注できないため下請に仕事がまわらない。これでは、富士市の景気は良くなると思う。地元の工事は、地元の業者が関わられるルール作りをしてほしい」「ヨーロッパのサプライヤーは電気料金が8倍～9倍になっている。製品価格を下げるできない為、レイオフ（一時解雇）を行った。今後、日本向けの木材は減少して、今年後半から再びウッドショックになる可能性がある」とのコメントが寄せられた。

『**金属部品**』…「地方の企業で、地元中心に営業している企業は非常に苦しいと思う。コロナ禍以前から景気は後退トレンドにあり、コロナ禍が収束しても景気が良くなるとは限らない。首都圏の大手中堅企業は、賃上げによって優秀な人材を確保し更なる業績向上が期待できるようだ。地方の中小零細企業との格差は今後も拡大する」とのコメントが寄せられた。

『**製紙原料**』…「製紙原料は減少している。テレワークによるオフィス古紙の大幅減少は今後も続く見込み。今後の先行きが見えない。古紙の流通は滞っている」とのコメントが寄せられた。

『**再生資源**』…「鉄スクラップは、トルコ震災復興の影響で東南アジアでの需要が高まり、輸出価格が上昇して国内相場を押し上げた。非鉄スクラップは、最大需要国の中国が全人代で大規模な景気刺激策が打たれなかったことで下降に転じた」「主要指標のひとつであるトルコの輸入鉄スクラップ規格は、大地震直後様子見となり、2月下旬より下落した。その後、被害の少ない製鉄所での生産増が予想されたことで再び反発し、国内相場も影響受け、上昇傾向である」とのコメントが寄せられた。（※トルコは世界的鉄スクラップ使用国である）

『工業薬品』…総じて仕入値の高騰を不安視する声が多かった。「原材料等の高騰が続き厳しい状況は変わらない」「物価高騰が止まらず、先行きが読めない」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「製紙各社の価格是正に期待する」「シリコンバレーの銀行破綻により、経済が不安定になると予想する。その影響が我々零細企業にも更なる影響がでると思われる」とのコメントが寄せられた。

『食品』…「売上低迷が続いており価格競争が激化している。中間問屋は淘汰され、生き残り競争が始まっている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「コロナが緩和され、売上は伸びていく見込みはある」とのコメントが寄せられた。

『その他』…「3年間のコロナ関連の借入金は、返済が始まれば零細企業は短期間に破綻する可能性が高い。政府が新たな対策を打って保証協会付き制度を出せば、さらに借入金は増え、最終的には巨額の負債により再チャレンジが絶望的になるようなケースも懸念される」「最近、タクシーを頼むと時間指定が難しかったり、長い待ち時間となったり、不便を感じる人が多い。運転手に話を聞くと夜の利用客が全然戻らない、人手不足など、あまり良い話が聞けない」「各種イベントが行われ、人の動きが戻って来ている事は良いと思う」「中小企業は、物価、賃金等の値上げ分を価格転嫁出来ないで非常に苦労している」「沼津の小麦粉問屋が廃業。大手依存の経営は危険だと感じた」とのコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	13.0	65.2	21.7	▲8.7	横ばい
売上高	42.9	38.1	19.0	23.9	下降
採算	17.4	43.5	39.1	▲21.7	横ばい

## 【小売業】 景気ムード…【厳しい状況】

『各種食料品』…総じて今後の消費拡大への期待の声が多かった。「コロナでも好調をキープしている事業所は多数見られる。コロナが落ち着いてきたため、人流も少しずつ増加傾向である」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「インバウンド含め観光関係が回復するだろう。弊社もわずかながら、観光絡みの消費が伸びている」「販売価格の値上げによる売上減少を心配していたが、今のところ問題なく消費者には受け入れていただいているようである」とのコメントが寄せられた。

『食料・飲料』…「茶葉については生産過多にあるが、良質な上級クラス（小売価格 100g3000円以上）の原料は少ない。」「家庭や企業で日頃飲まれてきたリーフ茶の需要は落ち続き、下げ止まりもないように感じる」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「茶葉の需要が減少し、リーフ茶を今まで通り販売していくには難しい。しかし、特定の客層を絞った環境では、上級茶の需要が確実にあるため、ターゲットを絞って販売力を上げていきたい。」「富士のほうじ茶ブランドの波及効果は高いので、新茶需要に繋げていきたい」とのコメントが寄せられた。

『医薬品』…「後発医薬品の流通悪化が続き、それに伴う業務が増えている。オンライン資格確認の義務化が4月より開始するが、まだ設置できてない薬局も多い」とのコメントが寄せられた。

『家電』…「スマホで遠隔操作可能な家電の売行きが今後伸びていくだろう」とのコメントが寄せられた。

『**生花**』…「売上は増加しているが、仕入値や電気代などの価格が利益を圧迫している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「仕入値や経費の高騰に歯止めが掛からなければ好転の見通しは立たない」とのコメントが寄せられた。

『**日用品・雑貨**』…総じて物価高騰による利益圧迫を危惧するコメントが寄せられた。また、「全国旅行支援の地域クーポンの恩恵にあずかり、他の部門のマイナスをカバーできた」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「アフターコロナ・インバウンドの増加による観光客の増加に期待する」とのコメントが寄せられた。化粧品小売に関しては、「メイクアップ関連に関しては、コロナ禍で大幅に減少していた需要の増加が期待できる反面、3年に及ぶコロナ禍で女性、特に若い世代におけるマインドの変化がどのような形で落ち着くのかに注目しなければならない」とのコメントが寄せられた。

『**自転車**』…「価格の上昇が止まらない為、売上に影響がでそうで不安」「先日、富士市で行われたサイクルロードレースも2回目の開催となり、自転車競技が徐々に認知され始め嬉しく思う」とのコメントが寄せられた。

『**その他**』…「吉原商店街では2月にまるごとマルシェが開催され、多くの人で商店街が盛り上がった」「富士駅前の再開発について情報が少な過ぎて不安である」「観光・産業振興よりも大事にしなければならない“静岡・富士での暮らし”を早急に構築するべきと考える」とのコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	15.0	50.0	35.0	▲20.0	横ばい
売上高	50.0	30.0	20.0	30.0	下降
採算	10.0	40.0	50.0	▲40.0	上昇

## 【サービス業】 景気ムード…【低調】

『**クリーニング**』…「昨年実施した値上げの影響が、期末にきて売上減少という悪い結果を引き起こしている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「徐々に景気回復に向かうが、この業界への影響は少し遅れる傾向がある」とのコメントが寄せられた。

『**運輸・倉庫**』…「紙の需要の減少と共に紙の運送業も厳しくなっている。」とのコメントが寄せられた。今後の見通しとしては、「4月より60時間以上残業も1.5倍となることも痛手である」「自動車運転業務の時間外労働が年960時間と上限規制される、いわゆる2024年問題もあり、人員不足が課題である」とのコメントが寄せられた。

『**不動産**』…「宅地分譲販売について、造成工事費は高騰しているが、販売価格に転嫁できず利益率が悪くなっている」「土砂の埋め立てに関する県の条例が厳しく、燃料費高騰が造成経費に拍車をかけている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「コロナ融資の返済がはじまる。景気回復は遅れており、土地は余り、供給超過によって地価が下がる」「物価高騰などがマイナスに働き、大手のような回復の兆しは感じられない」とのコメントが寄せられた。

『**求人広告・広告デザイン**』…「コロナ禍の影響が長引いており、求人動向の予測ができない状況」とのコメントが寄せられた。

『**専門サービス**』…「零細事業所の廃業やコロナ融資を受けた事業者の返済が近づき、資金繰りで悩む事業者が続出すると予想される」「全体的に中小の事業者は諸物価の上昇についていくのが精一杯で賃上げできるところは数少なく、厳しい状況が続くと予想される」「インボイス導入と電子帳簿保存法への対応で忙しい」とのコメントが寄せられた。

『**飲食**』…「コロナ規制緩和でも客足の減少を危惧する」とのコメントが寄せられた。今後の見通しとしては、「コロナ2類相当から5類へ移行することによる人流活発化を期待する」とのコメントが寄せられた。

『**運輸・倉庫**』…「ウクライナ戦争が集結しないと見通しが立たない」とのコメントが寄せられた。

『**葬祭業**』…資本力の大きい大手企業と地場企業の競争になってくるが、大手企業によるテレビCMやWeb有料広告の影響が大きくなっており、地域内でも、企業売買など再編が起こる可能性がある」とのコメントが寄せられた。

『**自動車・自動車整備**』…「観光旅行分野で一般団体の需要が増加してこないと、業界として非常に厳しいと予想する」「日野自動車の生産回復により需要増加が予想される」とのコメントが寄せられた。

『**各種食料品**』…「大手と中小零細では景気回復の度合いが乖離している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しとしては、「販売価格への転嫁がどれだけできるのかにかかってくる」とのコメントが寄せられた。

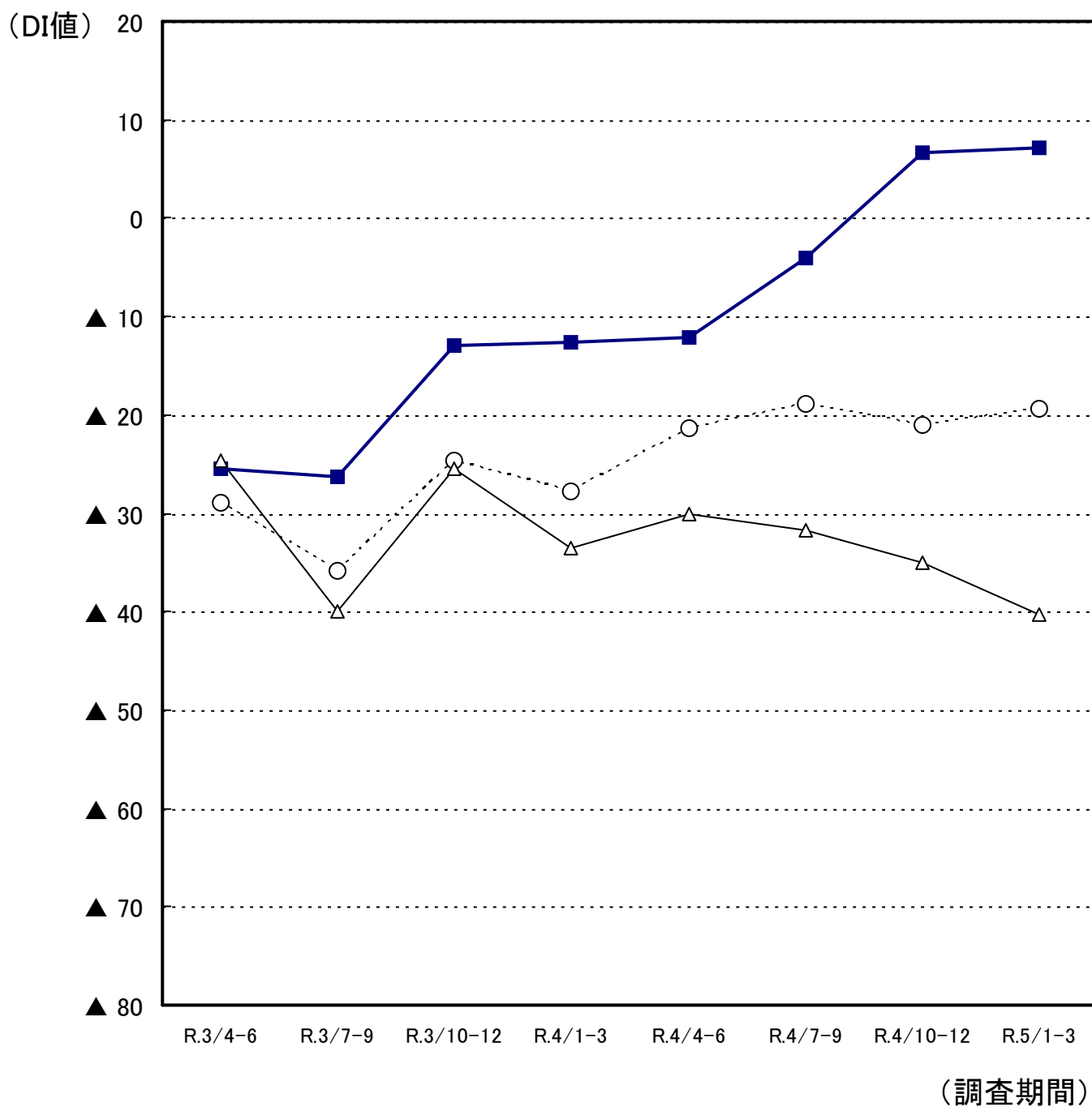
『**その他**』…「コロナで中止となっていたイベントなどが制限なしの状態で開催できるようになってきている。人流により明るい話題が増える連鎖を期待したい」「日銀の総裁が4月に交替になり、金融情勢推移が気になる」「米国の銀行の問題などで、第二のリーマンショックが起きなければいいと思う。金利が上昇すれば楽観的な見方はできず、二極化がより顕著になると予想される」とのコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	7.7	65.4	26.9	▲19.2	横ばい
売上高	51.9	25.9	22.2	29.7	下降
採算	11.5	50.0	38.5	▲27.0	横ばい



# 全産業主要調査項目の 前年同期比DI推移状況

■ 売上    ○ 業況    △ 採算



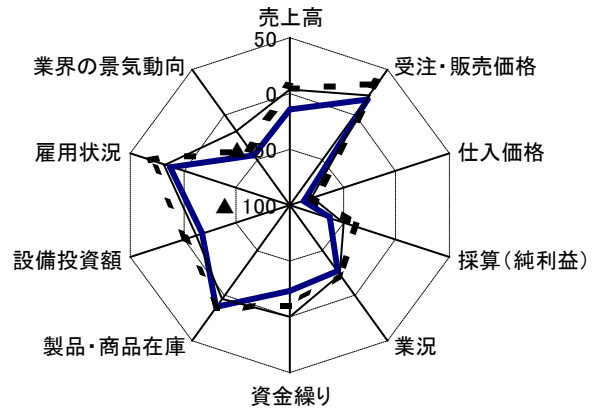
# レーダーチャート

売上高	増加・減少
受注・販売	上昇・下降
仕入価格	下降・上昇
採算	好転・悪化
業況	好転・悪化
資金繰り	好転・悪化
製品・商品在庫	減少・増加
設備投資額	増加・減少
雇用状況	不足・過剰
業界の景気動向	好転・悪化

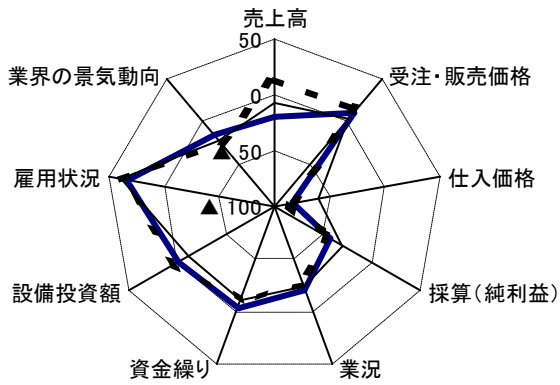
  

前年同期比	———
来期予測	———
前回調査時	- - - -

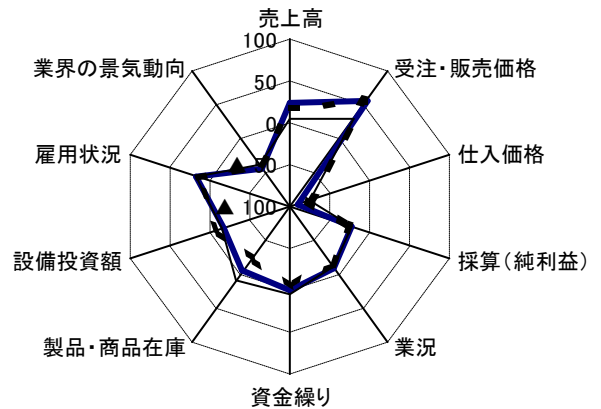
## 【製造業】



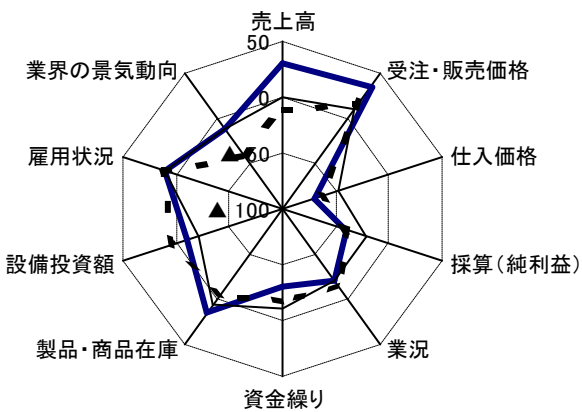
## 【建設業】



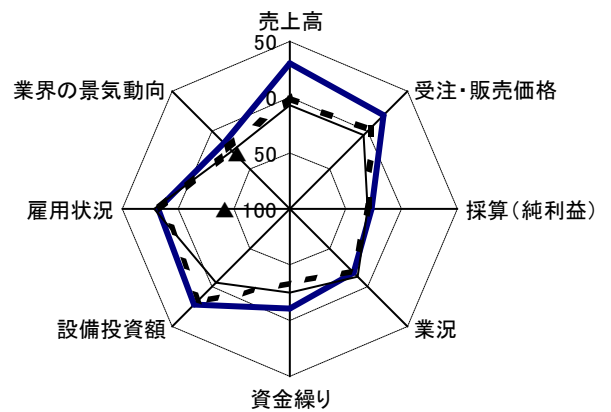
## 【卸売業】



## 【小売業】



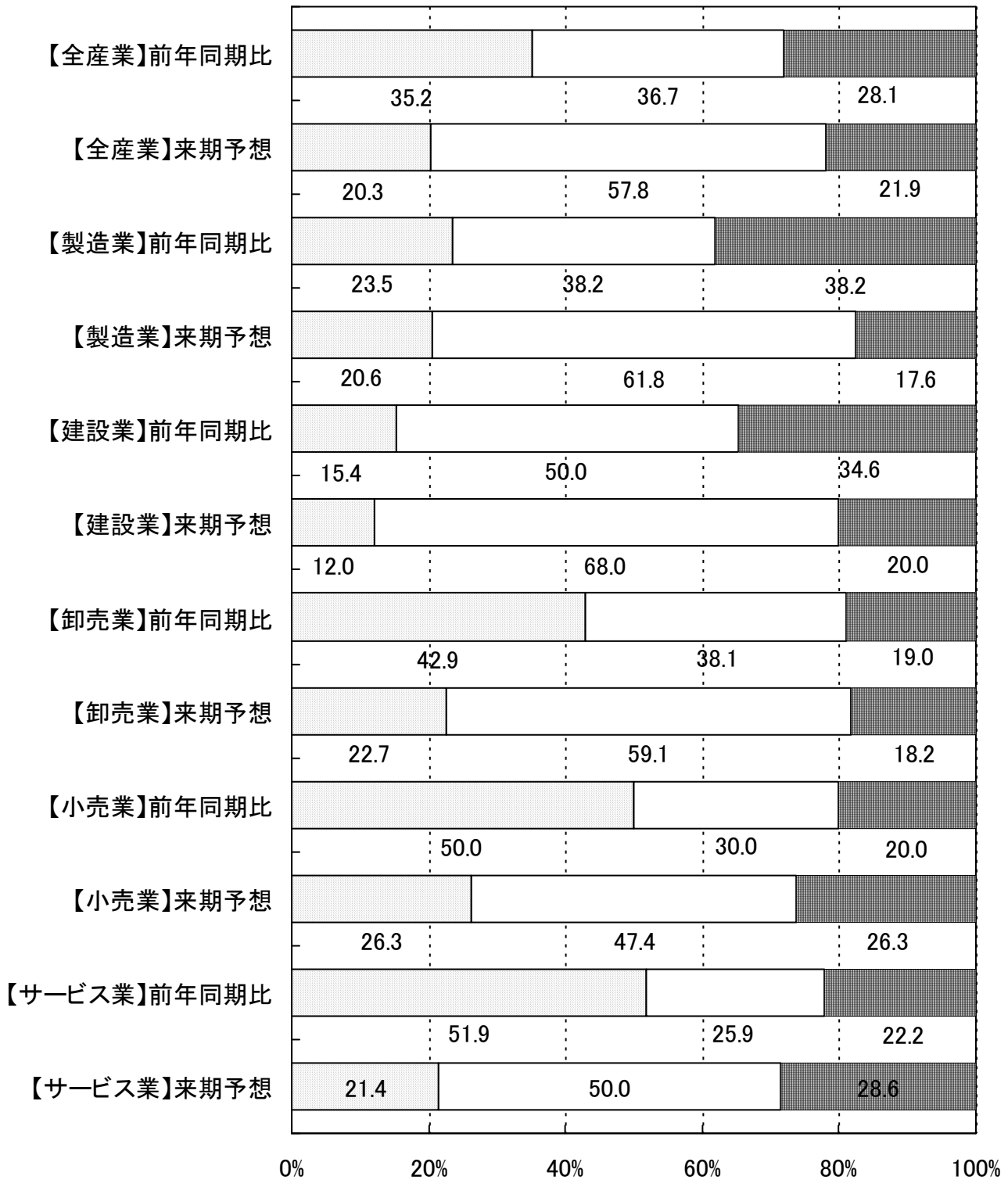
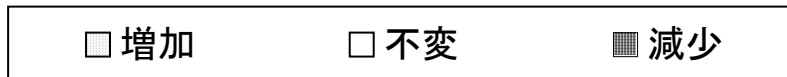
## 【サービス業】



◇ 経営上の問題点 ◇

産業別	上位回答項目
製造業	<p>1 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>2 位 設備老朽化</p> <p>3 位 販売価格値上げ難／人材不足</p> <p>その他 その他の需要の低迷</p>
建設業	<p>1 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>2 位 人材不足</p> <p>3 位 販売価格値上げ難／人員不足</p> <p>その他 過当競争／人件費高騰／売上、利益減による資金圧迫</p>
卸売業	<p>1 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>2 位 販売価格値上げ難</p> <p>3 位 人材不足</p> <p>その他 その他の経費増大／設備老朽化</p>
小売業	<p>1 位 その他の需要の低迷／商品、原材料仕入れ価格の上昇／売上、利益減による資金圧迫</p> <p>2 位 売上減に伴う利益減／設備老朽化</p> <p>3 位 販売価格値上げ難／人材不足</p> <p>その他 その他の経費増大</p>
サービス業	<p>1 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>2 位 人件費高騰</p> <p>3 位 販売価格値上げ難／人材不足</p> <p>その他 過当競争</p>

# 売上高の前年同期比と来期予測



## 最近の静岡県金融経済の動向

公表日（2023年3月14日）

日本銀行静岡支店  
照会先 TEL 054-273-4106

（概況）県内の景気は、新型コロナウイルス感染症や供給制約の影響を受けつつも、基調としては持ち直している。

最終需要の動向をみると、輸出と公共投資は高水準で推移している。個人消費と設備投資は持ち直している。住宅投資は弱含んでいる。

こうしたもとで、企業の生産は、持ち直しの動きが足踏みしている。

雇用・所得環境をみると、労働需給は改善傾向にあるほか、雇用者所得はなお弱さがあるものの、緩やかに改善しつつある。

消費者物価（除く生鮮食品）は、前年を上回っている。

### 1. 需要項目別の動向

※前回からの変化 改善 ↗ 横ばい → 悪化 ↘

（1）個人消費（前回からの変化） → 感染者数が高水準で推移する中でも持ち直している。

百貨店・スーパー売上高は、持ち直している。新車登録台数・販売台数は、供給制約の影響を残しつつも、幾分持ち直している。コンビニエンスストア売上高は、持ち直している。家電販売額は横ばい圏内の動きとなっている。ドラッグストア売上高は、増加している。旅館・ホテルの宿泊数は、人手不足等の影響を受けつつも、緩やかに回復している。

（2）公共投資（前回からの変化） → 高水準で推移している。

（公共工事請負金額前年比：23/1月▲21.8% → 2月62.3%）

（3）設備投資（前回からの変化） → 持ち直している。

（短観・設備投資額：21年度計画▲1.4% → 22年度計画23.7%）

（4）住宅投資（前回からの変化） → 弱含んでいる。

（新設住宅着工戸数前年比：22/12月▲2.0% → 23/1月19.4%）

（5）輸出（前回からの変化） → 高水準で推移している。

（輸出額前年比：22/12月25.2% → 23/1月13.4% <速報値>）

清水港、田子の浦港、御前崎港、静岡空港の4港合計

## 2. 生産、雇用・所得、物価の動向

(1) 生産(前回からの変化) → 持ち直しの動きが足踏みしている。

(鉱工業生産指数・生産<季節調整済>前月比：22/11月▲1.9%⇒12月0.4%<速報値>)

自動車・同部品は、持ち直しの動きが足踏みしている。二輪車・同部品は、緩やかに増加している。食料品は、幾分持ち直している。電気機械は、弱めの動きとなっている。化学は、幾分持ち直している。はん用・生産用・業務用機械は、緩やかに増加している。紙・パルプは、弱めの動きとなっており、楽器は、持ち直している。

(2) 雇用・所得(前回からの変化) → 労働需給：改善傾向にある。(→)

雇用者所得：なお弱さがあるものの、緩やかに改善しつつある。(→)

(有効求人倍率 季節調整値：22/12月1.32倍⇒23/1月1.29倍)

(3) 物 価 . . . . . 前年を上回っている。

(消費者物価指数除く生鮮食品：前年比22/12月4.5%⇒23/1月4.8%)

## 3. 企業倒産、金融面の動向

(1) 企業倒産 . . . 総じて落ち着いている。

(23/2月、負債総額10百万円以上)をみると、倒産件数(19件<前年比：▲171.4%>)  
負債総額(13億円<同：81.6%>)

(2) 預 金 . . . . 前年を上回っている。(前年比：22/12月末+1.8%⇒23/1月末+1.6%)

(3) 貸 出 . . . . 前年を上回っている。(前年比：22/12月末0.2%⇒23/1月末0.3%)

(4) 貸出約定平均金利 . . . 前月比低下している。(地元地銀・第二地銀4行ベース、総合・ストックベース)  
(水準：22/12月1.303%⇒23/1月1.298%)

以 上